DX基本構想

～創造的な教育活動への集中と「学ぶ機会はみな平等」の実現～

株式会社アットマーク・ラーニング

2025年12月23日

目次

1. はじめに.....3
1.1 株式会社アットマーク・ラーニングのミッションとビジョン.....3
1.2 デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進の意義.....3
1.3 本基本構想の趣旨、対象期間.....3
2. DX推進体制の構築.....4
3. 取組事項.....5
3.1 重点取組事項.....5
3.2 業務運営に係る取組事項.....6
3.3 DX推進のために基盤となる取組事項.....6
4. 達成指標.....7
5. おわりに.....8

1. はじめに

1.1 株式会社アットマーク・ラーニングのミッションとビジョン

株式会社アットマーク・ラーニングは、「学ぶ機会はみな平等」という想いを掲げています。成育環境や発達特性等によって子供たちが学ぶ機会を阻害・制限されることのない社会、誰もが主体的に「学ぶこと」を謳歌できる社会を目指しています。運営する明蓬館高等学校やアットマーク国際高等学校は広域通信制の学校であり、生徒を「未来からの留学生」として捉え、「生徒ファースト」を掲げて個々の主体性を尊重しています。

そのためにはデジタル化を進める必要があり、デジタル化によって教育活動をブラックボックス化させず、学習履歴や特性を精緻に分析・活用することで、一人ひとりに寄り添ったオーダーメイドの教育を、安定的かつ持続可能な形で提供します。また、「教師は評価者、生徒は評価される側」という古い教育の枠を打破しようと努め、時代の変化に適応し進化し続けます。

1.2 デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進の意義

データ活用やデジタル技術の進化が急激に進展する社会において、新たな価値創造の原動力として制度や組織の在り方をデジタル化に合わせて変革していくDXが求められています。

アットマーク・ラーニングにおいても、「学ぶ機会はみな平等」を具現化するために、DXを企業文化そのものの変革と捉え、率先して推進する意義は非常に大きいと言えます。

DX推進により期待される効果は以下の通りです。

1. **教育の質の向上と個別最適化の実現**：生徒の学習ニーズと発達特性（スペシャルニーズ含む）をデジタルで詳細に把握し、個別最適な学習環境を継続的に提供することで、真の「学ぶ機会はみな平等」を実現します。

2. **教職員の創造性への集中**：デジタル技術による業務変革を通じて、管理業務やバックオフィス業務の効率化・省力化を徹底し、創出された人的リソースを生徒一人ひとりとじっくり向き合うための指導や創造的な教育活動、および人的資本経営の実現に集中させます。

3. **教育エコシステムの構築と付加価値創造**：他の学校法人や学習サービス、社会教育施設など多様な主体との連携や協業を推進し、既存ビジネスの付加価値向上と新規ビジネスモデルの創出を追求します。

4. **事業継続体制の担保**：オンライン通信制という事業形態の根幹を支えるITシステムを技術的負債化から防ぎ、サイバーセキュリティ対策を経営リスクとして推進することで、レジリエントな企業体質を確立し、安定した教育サービスを提供し続けます。

1.3 本基本構想の趣旨、対象期間

本構想は、これまで個別最適化を目指していた各種システムの導入にとどまらず、株式会社アットマーク・ラーニング全体として機能するデジタル化を通じた変革を目指し、中期的な構想を定めるものです。

近年の社会変革の速さを鑑み、本構想の対象期間は2025年4月から2029年3月までとします。ただし、構想の見直しの必要が生じた場合には適時適切に対応します。

2. DX推進体制の構築

DX推進のための取組事項を着実に実施するために、中心的役割を担う体制を構築します。

部門	役割
(1) リーダー部門	
理事長・社長 (実務執行総括責任者)	DXの推進に当たり、仕事の仕方、組織・人事の仕組み、組織文化・風土そのものの変革に強いコミットメントを持って取り組みます。
PreDX推進室	DX戦略推進を統括する責任者として任命され、教育事業の変革とデジタル技術の活用に関する意思決定に一定の権限を持ちます。
(2) 推進部門	
理事長室	社長を議長とし、システム部門、教務部門、経営企画部門など組織横断的なメンバーで構成され、四半期ごとに進捗レビューを実施します。
AI活用イノベーションチーム	教務部門、拠点長などが参加する部門横断的なチームで、生成AIの具体的な活用事例を収集・共有し、現場発の改革を全社に展開します。
(3) 支援部門	
教務本部	生徒の学習経過・成果のデジタル化および可視化に関すること。個別最適化された指導の実現を推進します。
ITシステム部門	セキュアな生成AI活用環境や学習行動データプラットフォームなど、DX推進に必要なITシステム環境の整備・運用を担います。
人事部門	ICTツールを活用した事務業務の効率化の企画・提案を行うとともに、教職員のDXスキル向上のためのリスキリング研修を企画実施し、デジタル人材の確保・育成を図ります。

DX推進に当たっては、ICTの知見を持った上で現場の実務に即して技術導入の判断や助言を行うことができるデジタル人材を確保することが必要であり、内部に適切な人材がいない場合は、外部専門人材の活用（教育AI活用のガバナンス・倫理等に関する外部アドバイザーとの連携）も視野に入れ柔軟に対応します。

3. 取組事項

3.1 重点取組事項

（1）デジタル技術等の活用による教育の質の向上

アットマーク・ラーニングでは、生徒の自己認識に基づき主体的に学ぶセルフデザイン型学習に特化して、生徒の**自立と自律**を実現する個別最適化学習を支援します。

- **学習行動データプラットフォームの構築（セルフデザイン型学習支援）** 生徒の学習履歴、進捗、特性（スペシャルニーズ）に関するデータを統合し、教職員が容易にアクセス・分析できる「学習行動データプラットフォーム」を構築します。AIを活用してこれらの定性的・定量的なデータを分析・可視化することで、生徒のつまずきや学習傾向をリアルタイムで把握し、エビデンスに基づく個別最適な指導計画策定を支援します。これにより、教師が「創造的な教育活動」に集中し、「生徒ファースト」な教育を実践できる環境を構築します。

- **生成AI活用による指導強化** 教職員の指導準備、教材作成、進路相談等の業務において、生成AIを積極的に活用するプログラムを推進します。AIによる個別学習コンテンツの自動生成支援ツールを導入し、教職員がメンタリングやキャリア支援など、創造性を要する教育活動に集中できる時間を確保します。

- **学習環境整備（クラウド環境の活用）**学習センター内外、利用時間等の時間的・空間的制約のない学習環境を構築します。オンラインでの活用が容易なクラウド環境を利用し、生徒の自主学習時間の確保、学習行動データプラットフォームの日常的使用による自己省察の深化、および生徒のデジタル技術活用能力の向上につなげます。

（2）デジタル技術等の活用による教育連携・学校支援モデルの構築

アットマーク・ラーニングは、広域通信制高校の事業を核として、他の学習支援サービスや福祉サービスとの教育連携事業を推進しています。

- **セキュアな外部データ連携基盤の構築** 連携校との教育課程の内容充実や、地域における教員の確保に資するような、教育連携事業のためのセキュアな外部データ連携基盤を構築します。法令やガイドラインを遵守し、適切なデータガバナンス（データ分類、保護、利用権限管理）を確立した上で、生徒の学習進捗データや指導ノウハウを安全に共有できる仕組みを構築します。

- **教育エコシステムの創出** 地域・産業・組織をまたぐデータ連携を行うことで、付加価値を高め、広域通信制高校という枠を超えた、生徒ファーストな教育エコシステムの実現を目指します。

（3）非常事態下でも学びを確実に保障し得る環境の整備・構築

オンライン授業のノウハウ蓄積を踏まえ、上記のDXに係る取組等を通じて、オンライン環境での質の高い授業を実現し、いつでも・どこでも学びを確実に保障し得る環境を整備・構築します。IT基盤のレジリエンス強化を経営ビジョンに掲げ、デジタル機器を活用した教育のための設備や、オンラインで利用可能な学習コンテンツをさらに充実させます。

3.2 業務運営に係る取組事項

（1）ビッグデータの活用による教育力・経営力の向上

上記3.1の取組などをデジタル化し蓄積された教育ビッグデータ（学習行動データプラットフォーム）を分析し、教学IR（インスティテューショナル・リサーチ）を実現します。

- **エビデンスベースでの法人経営の実践** 学生の学習状況を把握するための教学IRに加え、事務組織内で保有するデータ（教務、人事、会計等の管理業務データ）の標準化を通じ、連携・クロス分析を可能にする仕組みを構築します。経営面においても教学IR機能を強化し、エビデンスベースの法人経営を実践し、企業価値向上に貢献します。

（2）各種事務の効率化による教職員の働き方改革と事業継続体制の担保

テレワークの実施やデジタル技術・AI等の活用による業務の効率化を図り、教職員の働き方改革の一助とします。

- **自動化の推進** 各種業務の効率化・改善を図るため、業務の抜本的な見直し、精選を行った上で、業務の簡素化・効率化を促進します。具体的には、クラウドSaaS（Software as a Service）の導入を全社的に推進し、教務、人事、会計、総務などのバックオフィス業務を自動化します。生徒の入学・履修・成績管理等の定型業務に対して、徹底的な自動化を推進します。

- **事業継続体制の担保** 多様な働き方に関する制度構築・実践を目指し、結果検証を踏まえ、テレワーク環境を構築します。これらの取組は、オンライン状況下における学生等の学習を保証するために、法人としての事業継続の観点からも有用なものであり、働き方改革・事業継続体制の担保の双方の観点から推進します。

3.3 DX推進のために基盤となる取組事項

（1）高機能情報ネットワークシステムの整備

各取組に伴う更なるデジタル化の進展により、その基盤となる情報ネットワークシステムの高機能化は必須です。DX推進の計画的な取組のために、情報ネットワークシステムについて、継続的・計画的な更新を実施します。

（2）セキュリティ対策の徹底

デジタル技術を安心・安全に活用するために、情報セキュリティ対策は必須です。情報セキュリティを取り巻く情勢の変化やサイバー攻撃の複雑化・巧妙化に対応するため、求められるセキュリティ対策は急速に高度化しています。

- **ゼロトラストセキュリティモデルの導入** サイバーセキュリティリスクを経営リスクと捉え、外部からの脅威に対応できるゼロトラストアーキテクチャを導入します。具体的には、教職員や生徒のID中心のアクセス制御（SSO/MFA）を徹底し、データ利用の際には権限管理と監査ログの取得を必須とします。

- **継続的なセキュリティ意識向上** 情報セキュリティ意識向上のために、セミナーや社内外の研修を活用し啓発活動を行います。また、DX戦略の実施の前提として、サイバーセキュリティ経営ガイドライン等に基づき対策を行います。

（3）情報基盤システムの更新

デジタル技術の活用のために、全学的な情報システムである情報基盤システムの機能強化は必須と考えます。

- **クラウドベースのデータ連携基盤の導入** 教職員が管理業務から解放され、創造的な教育活動に集中できるようにするため、教務・事務・人事管理などバックオフィス業務の効率化のため、各部門が利用するクラウドSaaSを導入し、これらのアプリケーション間を連携させるiPaaS（Integration Platform as a Service）を導入・標準化します。

- **レガシーシステム化の回避** ITシステムの全社最適化を目指し、既存のIT資産の現状を分析・評価する体制を構築し、レガシーシステム化を防ぐための計画的な刷新を推進します。

4. 達成指標

（1）個別最適化と指導の強化

各生徒ごと及び拠点ごとの学習進捗シートを作成し、年間で必要な学習完了数を目標指数として設定。拠点ごとで可視化することで生徒の学習支援の適切なタイミングと支援方法の把握に努めます。

（2）教育連携の推進

生徒の活動記録の入力に対しての、データ分析数を指標として設定。多職種での生徒支援を実施する上で、生徒の活動記録が基となるため、その入力と分析を増進することでより手厚い支援の実施に努めます。

（3）学びの継続性保障

生徒の年間取得予定単位数を目標指数として設定。インターネット環境下においても安心して学ぶことができ、卒業に必要な単位取得を目指します。

5. おわりに

本構想は、社会変化のスピードに取り残されないよう、国の動向や社会のニーズ（特に教育ニーズ）を反映させるように適宜見直しを行い、試行錯誤を繰り返しながら推進していくことが重要と考えております。

その際、デジタル化が目的となり、かえって生徒・教職員などの手続き・業務が非効率化することがないよう留意して参ります。AI活用はコスト削減ではなく、生徒の未来を創る人的資本投資であるという視点を強調し、効率化で創出された時間を、生徒一人ひとりとじっくり向き合うための創造的な教育活動に集中させるという本構想の最終目標の実現を目指します。

本構想を通じて構築した体制により、社会変革に合わせたデジタル化を継続的に推進することで、「学ぶ機会はみな平等」というアットマーク・ラーニングのミッションの実現を引き続き着実に目指していきます。